



仏教解釈論（上）

仏祖の視座

柳 幹康

無数に残された仏の教えのなかから、いかにその真意を見出すのか——今回は『宗鏡録』がこの仏教思想史上の一大難問にどう答えたのかを見てまいります。

仏教を開いたお釈迦様は対機說法——聞き

手の機根（能力）に鑑みて教えを説いたため、その教えのなかには互いに矛盾する言葉が数多く含まれています。そのため後世の仏教徒たちは、仏説（仏が説いた教え）からいかに仏意（仏の真意）を読み取るかという仏教解釈論の問題に取り組むようになりました。

インドでひろく用いられたのが、了義と不了義（未了義）の二分法です。了義とは「文字通りに理解されるべき」の意、不了義は「対に「文字通りに理解されるべきでない」という意味です。つまりインドの仏教徒は相反する教えに出会うたびに、その一方を「仏

意」を直接明かした教え（了義）、もう一方をそれが未だ分からぬ者のために設けた方便（不了義）とすることで、仏教を整合的に解釈していこうとしたのです。

のち仏教が中国に伝わり經典の翻訳が始まると、中国では教相判釈（教判）と称される独自の仏教解釈論が發展します。それは一言でいえば、經典を一定の基準に基づき分類することで、仏教の總体を整合的に理解しようとする営みでした。たとえば天台宗の祖とされる智顛（五三八―五九七）は仏説を浅から深に向かう五種に分類し、仏が衆生を成熟させる一連の流れとして仏教を理解しました。また華嚴宗の祖とされる法蔵（六四三―七一）は本末（根本とそこから派生する枝葉）の観点から仏説を五種に分類し、重層的な仏教観を提示しました。このように中国の仏教

徒はそれぞれの観点から仏説を分類・整序することで、「仏意」に至ろうとしたのです。

これに対し「教外別伝」（教えの外で別に真理を伝える）という禪の立場から、従来の教判とは異なる新たな仏教解釈論を提示したのが延寿の『宗鏡録』です。延寿は自身の見方について次のように述べています。

本書『宗鏡録』は一心という本性を明かすものであり、立場の分類や經典の判釈を行うものではない。ただ（一心のみを讀者に）提示し看取させ、頓悟円修（という最高の境涯）へと導くのだ。

（『宗鏡録』卷三四）

延寿がこのように説く背景には、次のような理解があります——經典の言葉は千差万別

だが、その本質はただひとつ、すなわち仏教の核心たる「一心」を説示することにある。その「一心」とは、本来仏である自身の心であり、このような心こそが釈尊以降禅宗祖師により代々脈々と伝えられてきた仏意に他ならない。重要なのは、教えの分類ではなく、その説示に従い一心を看取することなのだ――。

このような観点に立った時、一見難解な『宗鏡録』の次の一文もすんなりと理解できると思います。

……以上のことから分かるだろう、了義の教えも不了義の教えもみな了義なのだ。なぜなら（仏教の本質は）ただ一心だけだからである。そこで次のように言うのだ、「（一心を見抜く）円満な機根

の者が仏説を看れば、すべては（一心を説示する）円かな教えだと分かるだろう。……」と。
（『宗鏡録』巻三二）

つまり延寿は「一心を説示する」という機能の点から、あらゆる仏説をみな「了義」と看る仏祖の視座を提示するとともに、『宗鏡録』の読者にも自らその視座に立ち、仏説とそれが指し示す仏意――仏である自分自身の心――を看て取るよう求めているのです。

柳幹康（やなぎ みきやす）

一九八一年栃木県生まれ。二〇一三年東京大学大学院博士課程修了、博士（文学）。現在花園大学国際禅学研究所専任研究所員・専任講師。著書に『永明延寿と『宗鏡録』の研究――一心による中国仏教の再編』（法蔵館）。

お願い

花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の官製はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

*ㄨ切りは毎月1日です。

花園へのご意見・感想など

本誌へのご意見・感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。



〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64
妙心寺派宗務本所内編集室
俳壇／歌壇／花園 係

*住所、氏名を必ずお書きください。

*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

*なお投稿はお返しいたしません。



「いつもココロに花園を」
あなたとわたしのポケットエッセイ集

【花園】第67巻 第7号(通巻第791号)
平成29年7月1日発行(毎月1日発行)
定価55円

【発行人】栗原正雄

【編集人】島中寿浩

【印刷人】阿部乙彦

【発行所】〒616-8035 京都市右京区花園
妙心寺派宗務本所 教化センター
振替／01060-9-1400番
電話／075-463-3121番

表紙の絵 「トンネルとどいた」



やっと開通した小さなトンネルの向こうには、キラキラとした海がまぶしく映ります。 絵・SAYOKO

妙心寺派ホームページ…………… <http://www.myoshinji.or.jp>
臨黄ネットワーク(臨済宗・黄檗宗全般)…………… <http://rinnou.net>

『花園』誌一冊送りの年間購読料は、1,560円(送料込)です。
お申し込み・お問い合わせは頒布課まで。

*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。